

企業概要

株式会社アステア

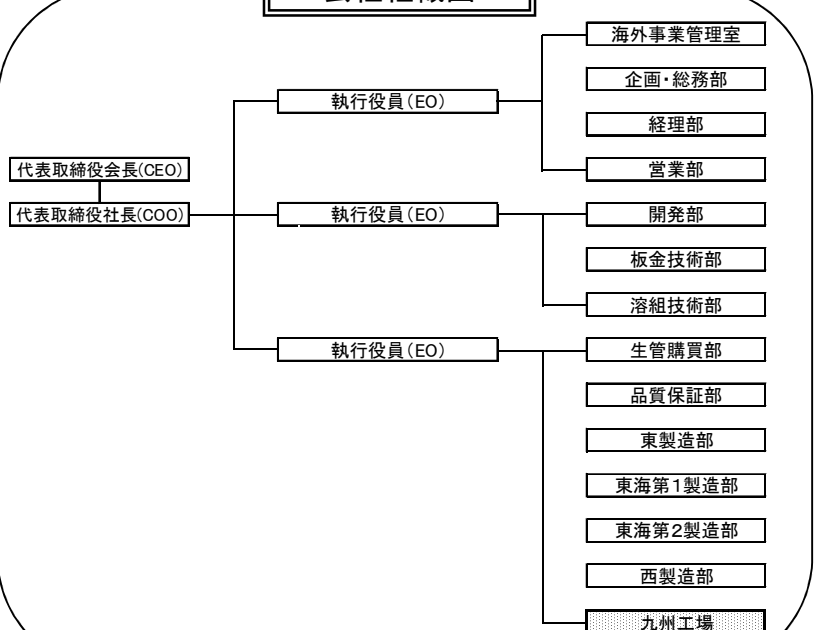
<事業内容>

自動車部品、農業用機械製品、
住宅用内装・外装部材等の製造用治具・工具、
金型、装置の設計、製造販売と同製品の製造に関する
開発・設計、技術開発、工法研究によるシステム技術の販売

企業概要

企業名 : 株式会社アステア
 設立年月日 : 2003年10月
 所在地 : (本社) 〒719-1134
 岡山県総社市真壁1597
 TEL 0866-93-2323
 FAX 0866-93-0415
 (九州工場) 〒824-0022
 福岡県行橋市大字稲童1173-1
 TEL 0930-26-7700
 FAX 0930-26-7701
 資本金 : 3.1億円 (当社全体)
 年商 : 210億円 (当社全体)
 従業員 : 667人 (2019年4月現在、九州工場…53人)
 代表者 : 代表取締役会長 水松 幹夫
 代表取締役社長 辻 穰
 主要取引先 : MMC、マツダ、ダイハツ九州、日産九州
 自動車関連の実績 : 有(製品: テックロスメンバーほか)
過去に実績有(製品:)
無
 交通アクセス : (九州工場) 新田原駅より車で6分

会社組織図



経営理念

快適な社会を実現する自動車部品メーカーとして、
 1. 全社員が一丸となり、夢のある企業を目指します。
 2. 進化と創造にチャレンジし、常に社会に貢献します。
 3. オープン、且つフェアに、全員で経営の質を高めます。

品質目標

品質の確保 … お取引先を含めた社外流出不具合の根絶
 (1)「決まりを守り守らせる」コミュニケーションとネットワークで
 ルール順守の体質づくり
 (2)異常発生時の処置ルール「止める、呼ぶ、待つ」の徹底
 (3)三現主義の徹底による真因追求と対策実施

改善目標

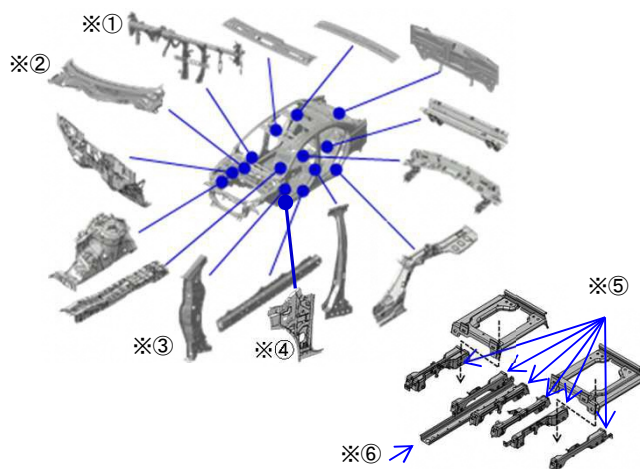
- 国内生産体制の整備と充実…効率的でリーナ組織・体制の構築
- 海外事業の確立…全社黒字化の達成
- 収益力の強化と安定利益体質の確立…知恵と工夫によるコスト低減と利益の拡大

自社の技術内容 (主要製品等)

【技術と製品】

●ボデー部品、シート部品

車1台分のボデー骨格部品をコンセプトイン～生産まで対応し、開発段階ではゲストエンジニアを中心に低コスト・高品質な構造提案を推進し、提案内容を量産図面に反映。



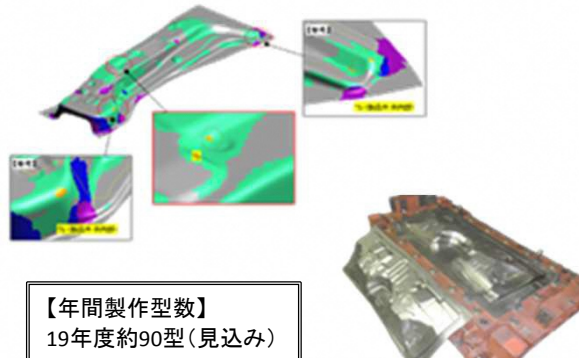
●機能部品

客先要求仕様図に基づき、ホットスタンプ、樹脂成形、ロールフォーミング等の固有技術を活かした製品開発を行い、顧客ニーズに合致した製品を提供。



●内製金型

CAE解析、1600 tonトライプレスを用いた品質向上・納期短縮



【年間製作型数】
19年度約90型(見込み)

Pick up
九州工場

主要製品	月産生産能力
※① デッキクロス	9,292台
※② カウルトップ	24,240台
※③ フロントピラー	16,160台
※④ ダッシュサイド	22,220台
※⑤ スライドアッパー	24,240台
※⑥ スライドセンター	24,240台
※⑦ フィラパイプ	22,220台
※⑧ ロアスライド	24,240台

保有設備一覧

機械名	メーカー	型式	スペック	最大ワークサイズ	台数
機械プレス	コマツ産機	E2G1000-3BM	加圧能力1000t	1620×855	1
機械プレス	コマツ産機	E2G800-3BM	加圧能力800t	1620×855	1
機械プレス	コマツ産機	E2G500-3BM	加圧能力500t	1620×855	2
機械プレス	コマツ産機	E2M600-3BM	加圧能力600t	1300×700	1
機械プレス	アマダ	TP-110	加圧能力110t		1
機械プレス	コマツ産機	OBW150-3MB	加圧能力150t		1
ロボット	不二越	SH-166-04	スポット溶接機	166Kg可搬	2
ロボット	不二越	SRA166-01	スポット溶接機	166Kg可搬	2
ロボット	パナソニック	YA-1QMR81T01	CO2溶接機		2
ロボット	パナソニック	YA-1WMR61T02	CO2溶接機		2
ロボット	安川	YR-1-06VX25			1
ロボット	安川	YR-HP20-A00	CO2溶接機	20Kg可搬	2
ロボット	安川	NX100 HP20	CO2溶接機	20Kg可搬	2
ロボット	安川	YR-UP50N-NX100	ナット付自動ライン	50Kg可搬	1
ロボット	安川	NX100 HP6	CO2溶接機	6Kg可搬	1
ロボット	安川	DX200 MH12	CO2溶接機	12Kg可搬	2

【生産拠点】

●国内拠点



●海外拠点



特徴・強み(セールスポイント)

3つの強み: 開発力(新構造・新製品を短期間で開発)、技術力(固有のモノづくり技術に最新デジタル技術を高度に融合)、国際競争力(海外展開を進め、独自の製品力で国際競争をリードする。)